

## はじめに

当研究所の業務については、日ごろ、格段のご理解、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、平成18年度は、県内では、給食施設や老人福祉施設等において、ノロウイルスによる集団感染が多発しましたが、一方、国内では、平成19年度にかけて、過去減少傾向にあった麻しんが、関東地方を中心に流行し、全国における患者の増加が懸念される状況となり、さらには、平成15年の発生以来、再び高病原性鳥インフルエンザによる国内の養鶏場での感染が確認されるなど、感染症に対する日ごろからの健康危機管理の重要性を改めて認識する年でありました。

このような中、当研究所では、衛生・環境の両分野における危機管理のための試験検査を最優先する一方で、環境問題の解決や県民の安全確保に資する調査研究、さらには、県民の皆様の様々な環境活動に対する技術支援を当研究所のミッションとし、各種の調査研究に取り組んでいるところです。

調査研究の内容やその成果については、県のホームページや出前講座、さらには大学や他の試験研究機関との共同シンポジウム等を通じ、わかりやすい情報に心がけ、広く県民の皆様に提供して参りたいと考えておりますので、今後とも一層のご指導、ご助言を賜りますようお願いいたします。

本年報は、平成18年度に当研究所で実施した業務や調査研究の成果をとりまとめたものです。内容等について、皆様から忌憚のないご意見をいただければ幸いに存じます。

平成19年12月

鳥取県生活環境部衛生環境研究所

所長 八幡正雄